



# 太陽の子

さいたま市立常盤小学校だより  
令和8年7月号(第4号)  
令和8年6月30日発行

## 【学校の教育目標】

心身ともに健康で 思いやりの心もち 主体的に学ぶ常盤っ子の育成

学校は 「勉強をするところ」「友達と仲良くするところ」「安心・安全なところ」

## 【めざす児童像】

- よく考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子
- かかわりあいを大切にする子

## 中2の夏

校長 藤田 昌一

夏休み。部活が休みのある日、母親にたたき起こされる。

「こりゃあ、昌！起きっ！ これらから仕事行ってくるけん。買い物しといてんな。ええか、『大林』じゃの一て、『コムラ』で買うんで。そっちの方が安いけん。キュウリと、〇〇と〇〇と〇〇と・・・それから、牛乳2本な。安いのがあるけん、そっちで一。それから、雨が降りそうじゃけ一、洗濯もん入れといてんな。ええか。ほんなら行ってくるで。夕方〇時ごろ帰ってくるけん。」

**【解説】 近所の八百屋ではなく、遠くのスーパーの特売品の購入と、洗濯物の取込みを命令された「中2」の私（〇県T市）**

大声かつ早口で言い残して、母親は仕事に出かけていく。起き抜けのぼーっとしている頭で、これだけのことを一方的に言われても処理しきれないわけがない。

眠いのを起こされた反発もありつつ、日中スーパーへ。当然メモなど取っているはずもなく、記憶をたどりながら買い物。それでも、「言われた物は全部買えたじゃろ一（買えただろう）」と確信して帰宅。日が陰ると、洗濯物も取り込んでおく。夕方、母親が帰宅する。

「帰りました一あ。洗濯もん入れてくれたんじゃな一。で、買い物はしてくれたかあ。これじゃな。（…確認中…）ありゃ、牛乳が足らんがな。2本言うたろ一。1本しかないがな。なにしょんな一。しっかりせー！」

朝、寝起きに、一方的に命令され、それに従ったものの、感謝の言葉もなく、牛乳1本足りないことで叱られた。中2という多感な時期でもあり、内心「気が悪り一！（腹が立つ）」と思ったが、その日は我慢して何も言わなかった（私の落ち度もあるので）。

後日、朝、同様な命令が下る。前回は牛乳1本のことで叱られたので、今回はしっかりとメモ。「完璧にやっちゃる！（やってやる）」と決意を固め、買い物はもとより、様々な仕事を全てやり遂げ、母親の帰りを待ち構える。

「ただいま一。今日はちゃんと買えたかあ？キュウリあるなあ。牛乳もちゃんと2本あるがな。〇〇も、〇〇も・・・ちゃんと買えとるがな！」

ちょっと誇らしく思ったが大間違い。その次の一言。

「（節をつけながら）お～お一！ 珍し！ 珍し！」

その後、私は荒れた…。